

## 銀行手数料見直しについて

国からの振込手数料引き下げ要請を踏まえ、全国の銀行が銀行間の送金手数料を抜本的に見直す施策が検討されている昨今。世界的にキャッシュレス決済の普及で各銀行の手数料の不透明さが浮き彫りになり、引き下げに向けた圧力が強まっている一方で、長引く低金利で収益力が落ちた銀行はサービスに見合った対価を求め、これまで銀行間手数料が無料だった公金や給料の送金が有料化される可能性も想定され始めています。銀行口座に手数料を課す事がもはや既成事実となっている現在、改めて銀行が課す手数料について考察してみましょう。

### 【銀行手数料の種類】

手数料と一口に言ってもどのような種類の手数料があるのか、全て挙げればキリが無いのでここでは主に会社経営において良く出てくる代表的な手数料をご紹介します。

- ・振込手数料（インターネットバンキング、定額自動送金）
- ・代金取立手数料
- ・割引取立手数料
- ・手形、小切手発行手数料
- ・外為送金手数料
- ・証明書発行手数料
- ・両替手数料
- ・融資 繰上返済手数料
- ・条件変更手数料
- ・不動産担保取扱手数料
- ・融資 事務取扱手数料
- …etc.

### 【銀行側にとっての手数料とは】

地域銀行のみならず、メガバンク等の主要銀行を含めた全銀行業にとって主な収入源である【金利ビジネス】だけでは事業存続は厳しい時代にあり、役務収益を中心とした【手数料ビジネス】へと徐々に転換され始めています。例えば、不動産の売り手と買い手をつなぎ仲介ビジネス手数料を得るケース、この場合銀行は不動産会社へ顧客を紹介するだけで仲介手数料が入り、契約（融資）に至った場合、売

買手数料及び融資事務取扱手数料等の二重取りで手数料を得る事が可能となります。その他投資信託等の運用商品の手数料、保険販売における代理店手数料といったサービス提供の対価として得た手数料収入が今般の銀行の主な収益源になってきています。

### 【自社の取引内容と手数料は？】

では、自社に置き換えて考えてみましょう。1ヵ月の間に、発生する様々な取引のなかで銀行から課される手数料が何種類あり、幾ら払っているのかを即答できる経営者の方は実際のところあまり多くないように思われます。業種業態にもよりますが、まずは現状取引のある金融機関へ支払っている各手数料を精査し、全体図を掴むことが肝要です。そのうえで、無駄な取引がないかを確認し余計な出費を削ることが、財務体質改善の一步となり得ます。

例えば 資金移動や振込といった、ほぼ毎日発生する取引に生じる手数料も 1回あたりは大した金額でなくとも、年間トータルで見ると無視できない金額になってきます。

また、手形小切手発行手数料をはじめ手数料金額が各金融機関によって大きく違うケースもあります。その他 海外送金といった外為取引をご利用されている場合、仕向銀行で発生している手数料の種類や金額、相場優遇の有無等現状を把握することで、他金融機関へ条件面の相談・提示を行い、優遇措置が受けられる場合もあります。

### 【最後に】

多くの経営者の方は、融資に伴う貸出金利の増減には大変敏感です。しかしながら、一方で銀行に支払っている手数料に関してはよく把握できていないのが現実かと思えます。これを機に一度 取引銀行と他行のHPに記載されている手数料一覧をチェックし現状の手数料と比べてみたり、海外送金における相場優遇等といった各取引におけるディスカウントが幾ら程度なのか、などの不明点を銀行の営業担当者に尋ねて頂くことをおすすめ致します。